平成25年度を振り返って

県立薩南病院　院長　古川　重治

平成25年度は日本病院機能評価機構の認定更新の年に当たりました。今回は3度目の更新に当たり，初回や2度目の更新の時のように，全く新しい課題に取り組む必要はありませんでしたが，これまでの日常の活動が評価されることになり，更なる質の向上を目指して各部署において努力していただきました。

7月22日，23日の2日間にわたり，病院機能評価機構による現地調査が行われました。

結果的には大きな問題も指摘されず，転倒転落対策については思いがけずS評価までいただきました。転倒転落についてはアウトカムが伴っていないため，恐縮した次第ですが，その他の項目も総じて高評価を得られたのは，職員の日頃の努力のたまものだと思います。本当にありがとうございました。引き続きPDCAサイクルを回して改善に努めていく必要があります。

8月11日には南薩3市医療体制充実を考えるシンポジウムが開かれました。薩南病院の小児科再開問題をはじめ，将来の産科医療の危機，地域包括ケアへの取り組みなど，南薩3市がこれからの医療問題を共通認識できる有意義な会になると期待していたのですが，実際に開かれてみると，目的のピンボケした中途半端な会合になってしまったのは，多くの市民のかたが参加していただけに残念でした。

病院については，建築以来35年頑張っていたエレベーターがさすがに老朽化したため，9月は2病棟側，10月には3病棟側のリニューアル工事を行い，LED照明となり非常に明るくなりました。

問題点としては，３階へのエレベーターが１系統しかなく，バックアップがないため，修理中は階段を使用できない患者さんは３階へ上がれないことになり，対策に苦慮しました。結局，給食用のエレベーターを急遽臨時に使用することでなんとか対応しましたが，35 年前の設計ではこのような事態は考慮していなかったようで，のどかな時代だったのだと思います。

このように構造的にも，コンセプト的にも老朽化してきている薩南病院は，このままの形態で診療を続けていくのは困難なことから，25 年末には改築についての基礎調査が始まり，一定の結果がまとまりました。引き続き 26 年度に設置される，改築について検討する『薩南病院あり方検討委員会』における検討資料となる予定です。

最後に 25 年度は経常収支で 1,100 万円，資金収支では 14,100 万円の黒字となりました。

これは 21 年の整形外科休診前以来 4 年ぶりの経常収支の黒字で，主に内科，循環器科の増収によるものでした。

25 年度は，常勤医 14 人という医師不足の中でも職員が一丸となって頑張った年だと思います。